



平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年11月5日

上場取引所 東 大

上場会社名 宝ホールディングス株式会社

コード番号 2531 URL <http://www.takara.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 柿本 敏男

問合せ先責任者 (役職名) 財務・IR部長

(氏名) 掛見 卓也

TEL 075-241-5124

四半期報告書提出予定日 平成24年11月9日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第2四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	95,711	0.2	2,899	△12.8	2,874	△16.7	405	△57.7
24年3月期第2四半期	95,478	4.4	3,326	2.4	3,451	6.7	959	△30.4

(注) 包括利益 25年3月期第2四半期 241百万円 (△62.8%) 24年3月期第2四半期 648百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第2四半期	1.98	—
24年3月期第2四半期	4.62	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第2四半期	197,299	104,439	46.3
24年3月期	197,437	107,659	48.0

(参考) 自己資本 25年3月期第2四半期 91,360百万円 24年3月期 94,783百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	—	—	9.00	9.00
25年3月期	—	—	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	9.00	9.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	202,200	1.8	9,500	2.5	9,650	0.3	4,600	15.1	22.58

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 第1四半期より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当しております。詳細は、四半期決算短信(添付資料)4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期2Q	217,699,743 株	24年3月期	217,699,743 株
② 期末自己株式数	25年3月期2Q	15,086,880 株	24年3月期	12,277,683 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期2Q	204,617,043 株	24年3月期2Q	207,623,176 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 平成24年5月9日発表の連結業績予想の見直しを行った結果、当期純利益は変更していません。なお、自己株式数の変動に伴い1株当たり当期純利益を変更しております。本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「(3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。
2. 当社は11月8日(木)に機関投資家・証券アナリスト向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算説明資料については、説明会終了後遅滞なく当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(6) セグメント情報等	10

○ 第2四半期決算短信補足資料

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要等を背景に底堅く推移してきたものの、欧州債務問題や中国経済の減速等による世界景気の下振れリスクが高まり、国内においても長引くデフレや円高の影響などにより景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような環境のなか、当社グループでは、長期経営ビジョン「TaKaRaグループ・ビジョン2020」の実現へ向け、「国内での安定成長を実現するとともに、海外で大きく成長するための事業基盤を拡大する」ことを基本方針とする「TaKaRaグループ中期経営計画2013」のもと、環境変化に強いバランスのとれた事業構造を構築することで更なるグループ企業価値の向上を目指しております。

国内酒類事業においては、多様化する消費者嗜好に対応したオリジナリティある新製品の開発やブランド育成に注力し、また調味料・酒精事業においても顧客企業のニーズにきめ細かく対応した商品提案を行うことにより、売上高の拡大を図っております。

海外酒類事業、海外における日本食材卸事業については、両事業を通じて日本食文化を世界に広げることによって事業の拡大、成長を加速させることを目指しております。

遺伝子工学研究事業では、市場の伸びが期待できるリアルタイムPCRや細胞生物学分野へ積極的に新製品・サービスを提供するとともに、遺伝子医療事業では、遺伝子治療、細胞医療の臨床開発を積極的に推進しております。また健康食品事業では、日本古来の食品素材の機能性に着目した健康食品の開発、販売により事業拡大に努めております。

当第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比100.2%の95,711百万円となりました。

売上原価は原材料価格の上昇もあり、前年同期比101.0%の59,163百万円となり、売上総利益は同99.1%の36,548百万円となりました。

販売費及び一般管理費は、販売促進費の増加などにより前年同期比100.2%の33,648百万円となり、営業利益は、同87.2%の2,899百万円となりました。

営業外損益では、受取配当金などの営業外収益が減少し、社債発行に伴い社債利息や社債発行費用などの営業外費用が増加しましたので、経常利益は前年同期比83.3%の2,874百万円となりました。

特別損益では、株価下落の影響を受け投資有価証券評価損1,019百万円を特別損失に計上したことなどにより、税金等調整前四半期純利益は前年同期比70.8%の1,607百万円となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の四半期純利益は前年同期比42.3%の405百万円となりました。

セグメントの業績の概要は次のとおりであります。

(宝酒造グループ)

当第2四半期連結累計期間の当セグメントの売上高は、前年同期比99.9%の84,909百万円と前期に比べ僅かに減収となりました。

品種別には、焼酎では、発売100周年を迎え積極的なプロモーションを実施した<宝焼酎>や、本格焼酎<黒よかいち>が増加しましたが、混和焼酎や果実酒用35度焼酎が減少したため焼酎全体の売上高は減収となりました。一方、清酒は、<松竹梅「天」>や低アルコールのスパークリング清酒<松竹梅白壁蔵「霽(みお)」>などが好調に推移するとともに、収納性に優れ、ゴミ捨ても簡便なパウチパック容器入り商品のラインナップを強化したことなどにより増収となりました。また、海外ではTAKARA SAKE USA INC. (米国)、宝酒造食品有限公司 (中国) がともに清酒の増収に寄与しました。ソフトアルコール飲料では、<焼酎ハイボール>は引き続き売上を伸ばしましたが、前期の震災に起因する特殊要因の反動により<直搾り>などが減少したことによって、ソフトアルコール飲料全体の売上高は減収となりました。その他酒類や本みりんなどの調味料、原料用アルコールもそれぞれ増収となりました。物流では、当期より新たに連結対象となった工学エンジニアリング株式会社の売上が加わったこともあり増収となりました。その他では、FOODEX S. A. S. (仏国)の日本食材卸事業の売上が引き続き増収となりました。

売上原価は、原材料価格の高騰により原価率が上昇し、前年同期比101.0%の54,287百万円となり、売上総利益は同98.0%の30,622百万円となりました。販売費及び一般管理費は、新製品育成のための販売促進活動を積極的に行ったことや、売上商品構成の変化などから販売促進費が増加しましたが、運送費や、管理費等の減少により、前年同期比99.8%の28,608百万円となりました。

以上の結果、当セグメントの営業利益は前年同期比78.4%の2,014百万円となりました。

(タカラバイオグループ)

当第2四半期連結累計期間の当セグメントの売上高は前年同期比104.3%の9,013百万円となりました。

遺伝子工学研究事業においては、研究用試薬の売上高が円高の影響を受けたものの増加し、理化学機器の減少を補い増収となりました。また遺伝子医療事業では、リンパ球培養用培地・バッグ等の売上増加により増収となりました。医食品バイオ事業では、健康食品は減少しましたがキノコ関連の売上が増加し増収となりました。

売上原価は、利益率の高い品目の売上高が増加したことから前年同期比102.3%の3,961百万円となり、売上総利益は同106.0%の5,052百万円となりました。販売費及び一般管理費は、人件費および研究開発費等の増加により前年同期比105.8%の4,628百万円となりました。

以上の結果、当セグメントの営業利益は前年同期比107.6%の423百万円となりました。

(宝ヘルスケア)

当第2四半期連結累計期間の当セグメントの売上高は前年同期比85.6%の1,135百万円となりました。

健康食品では、主力のフコイダン関連商品の消費者向け通信販売が減少しましたが、企業向けの原料販売およびOEM事業の売上高が増加しました。一方で茶飲料PB供給事業の売上高が減少しました。

利益面では、原価率は低下しましたが、売上総利益は前年同期比90.2%の403百万円となりました。当セグメントは、引き続き事業育成のための広告宣伝費を先行的に投下しているため当第2四半期連結累計期間に営業損失3百万円を計上しておりますが、損益は前年同期より83百万円改善しました。

(その他)

報告セグメント以外の「その他」のセグメントの売上高は前年同期比100.8%の3,617百万円となり、営業利益は、同192.2%の53百万円となりました。

品種別販売実績

セグメントの名称	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	前年同期比
品種	金額(百万円)	金額(百万円)	(%)
宝酒造グループ			
焼酎	36,729	35,817	97.5
清酒	7,364	7,903	107.3
ソフトアルコール飲料	15,212	13,463	88.5
その他酒類	4,914	5,404	110.0
酒類計	64,220	62,589	97.5
本みりん	6,884	6,928	100.6
その他調味料	3,504	3,676	104.9
調味料計	10,389	10,605	102.1
原料用アルコール等	3,097	3,223	104.1
物流	4,368	5,385	123.3
その他	2,921	3,105	106.3
計	84,996	84,909	99.9
タカラバイオグループ	8,642	9,013	104.3
宝ヘルスケア	1,326	1,135	85.6
その他	3,590	3,617	100.8
事業セグメントに配分していない 収益およびセグメント間取引消去	△3,076	△2,964	—
合計	95,478	95,711	100.2

(注) 販売金額には酒税を含んでおりますが、消費税等は含まれておりません。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末の総資産は197,299百万円となり、前連結会計年度末に比べ138百万円減少いたしました。流動資産は、現金及び預金の増加や棚卸資産の増加、余資の運用としての有価証券の減少などにより前連結会計年度末に比べ1,878百万円増加の127,956百万円となりました。固定資産は主として上場株式の時価下落による投資有価証券の減少により同2,016百万円減少し69,342百万円となりました。

負債合計は92,859百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,082百万円増加いたしました。流動負債は納税による未払法人税等の減少などにより前連結会計年度末に比べ1,289百万円減少の49,958百万円となりました。固定負債は社債の発行などにより同4,371百万円増加し42,901百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、配当金の支払や自己株式の取得などで前連結会計年度末に比べ3,220百万円減少し104,439百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益1,607百万円、減価償却費2,052百万円、投資有価証券評価損1,019百万円、法人税等の支払額2,410百万円などにより、前年同期に比べ510百万円増加し1,315百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形及び無形固定資産の取得による支出3,021百万円などにより、2,594百万円の支出となり、前年同期に比べ1,902百万円の支出減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、社債の発行による収入9,923百万円、社債の償還による支出5,000百万円、自己株式の取得による支出1,570百万円、配当金の支払額1,847百万円などにより1,137百万円の収入となり前年同期の2,022百万円の支出から、3,159百万円の増加となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間末の現金及び現金同等物残高は、前連結会計年度末とほぼ同水準の、29,102百万円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

売上高につきましては、宝酒造グループが順調に推移しており、第2四半期連結累計期間では期初計画を上回っておりますが、下半期もデフレ下の厳しい営業環境が続くことが予想されること、タカラバイオグループおよび宝ヘルスケアが期初計画を下回っていることなどから、通期業績予想は期初計画を600百万円下回る見込みであります。

営業利益および経常利益につきましても、第2四半期連結累計期間では期初計画を上回っております。上述の通り、売上高は期初計画を下回る見込みであります。原価率の改善を見込んでおり、営業利益および経常利益は期初予想を据え置いております。

一方、当第2四半期純利益に関しましては、株式市況の低迷を受け投資有価証券評価損を計上したため大幅な未達となりました。この評価損は、第2四半期連結累計期間の業績予想には織り込んでおりませんでした。通期の期初計画には約8億円の評価損を織り込み済みであり、今回の予想では約13億円に見直しております。しかしながら、タカラバイオ株式会社で第3四半期に退職給付制度の変更に伴う特別利益を計上するなど、特別利益も期初計画を上回る見込みであることから、当期純利益につきましても、期初予想を据え置いております。

(注) 当社グループの時価のある株式の評価損計上基準は、市場価格が簿価の50%以上下落した場合(即時)に加え、30%以上下落した状態が一定期間継続した場合(期末)としております。期初において、前期末株価が当期末も継続したと仮定した場合に30%ルールの対象となる評価損を通期業績予想に織り込んでおりましたが、この一部が当第2四半期連結会計期間末において50%以上下落したため、当第2四半期連結累計期間において評価損を計上したものであります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び一部の国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以降に取得した有形固定資産のうち、改正前の法人税法に規定する減価償却の方法を採用していたものについて、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

なお、これによる当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	30,843	32,417
受取手形及び売掛金	50,721	50,498
有価証券	15,660	13,636
商品及び製品	20,847	21,401
仕掛品	886	1,852
原材料及び貯蔵品	2,747	2,892
その他	4,442	5,332
貸倒引当金	△71	△75
流動資産合計	126,078	127,956
固定資産		
有形固定資産	41,996	42,183
無形固定資産		
のれん	3,531	3,455
その他	1,704	1,649
無形固定資産合計	5,236	5,105
投資その他の資産		
投資有価証券	18,450	16,449
その他	5,895	5,825
貸倒引当金	△219	△220
投資その他の資産合計	24,126	22,054
固定資産合計	71,359	69,342
資産合計	197,437	197,299
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	13,976	12,532
短期借入金	5,018	4,818
1年内償還予定の社債	5,000	5,000
未払酒税	10,589	11,659
未払費用	3,977	4,921
未払法人税等	2,207	957
賞与引当金	2,005	2,228
その他の引当金	1,731	1,734
その他	6,740	6,106
流動負債合計	51,247	49,958
固定負債		
社債	20,000	25,000
長期借入金	496	478
退職給付引当金	9,625	9,650
長期預り金	5,881	5,672
その他	2,527	2,101
固定負債合計	38,530	42,901
負債合計	89,777	92,859

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,226	13,226
資本剰余金	3,195	3,195
利益剰余金	88,012	86,567
自己株式	△6,922	△8,492
株主資本合計	97,512	94,496
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,805	2,149
繰延ヘッジ損益	△17	△27
為替換算調整勘定	△5,516	△5,257
その他の包括利益累計額合計	△2,728	△3,135
少数株主持分	12,876	13,079
純資産合計	107,659	104,439
負債純資産合計	197,437	197,299

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
売上高	95,478	95,711
売上原価	58,583	59,163
売上総利益	36,895	36,548
販売費及び一般管理費	33,569	33,648
営業利益	3,326	2,899
営業外収益		
受取配当金	206	195
その他	266	258
営業外収益合計	473	453
営業外費用		
支払利息	254	278
その他	93	200
営業外費用合計	347	478
経常利益	3,451	2,874
特別利益		
固定資産売却益	196	133
投資有価証券売却益	2	—
その他	14	—
特別利益合計	214	133
特別損失		
投資有価証券評価損	357	1,019
災害による損失	805	—
その他	230	381
特別損失合計	1,394	1,400
税金等調整前四半期純利益	2,271	1,607
法人税、住民税及び事業税	1,178	1,163
法人税等調整額	15	△120
法人税等合計	1,194	1,042
少数株主損益調整前四半期純利益	1,076	564
少数株主利益	117	158
四半期純利益	959	405

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,076	564
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△888	△657
繰延ヘッジ損益	△77	△9
為替換算調整勘定	548	337
持分法適用会社に対する持分相当額	△12	6
その他の包括利益合計	△428	△323
四半期包括利益	648	241
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	447	△1
少数株主に係る四半期包括利益	200	242

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,271	1,607
減価償却費	2,150	2,052
受取利息及び受取配当金	△291	△281
支払利息	254	278
投資有価証券評価損益(△は益)	357	1,019
売上債権の増減額(△は増加)	△1,864	279
たな卸資産の増減額(△は増加)	△255	△1,199
仕入債務の増減額(△は減少)	266	△1,616
未払酒税の増減額(△は減少)	△401	1,069
その他	△373	432
小計	2,114	3,640
利息及び配当金の受取額	285	329
利息の支払額	△251	△245
法人税等の支払額	△1,343	△2,410
営業活動によるキャッシュ・フロー	804	1,315
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△5,192	△13,825
定期預金の払戻による収入	3,699	14,202
有価証券の取得による支出	△519	△571
有価証券の売却及び償還による収入	543	612
有形及び無形固定資産の取得による支出	△3,072	△3,021
有形固定資産の売却による収入	478	207
その他	△433	△198
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,496	△2,594
財務活動によるキャッシュ・フロー		
社債の発行による収入	—	9,923
社債の償還による支出	—	△5,000
自己株式の取得による支出	△6	△1,570
配当金の支払額	△1,764	△1,847
その他	△251	△367
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,022	1,137
現金及び現金同等物に係る換算差額	10	79
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△5,703	△62
現金及び現金同等物の期首残高	28,384	29,165
現金及び現金同等物の四半期末残高	22,680	29,102

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	宝酒造 グループ	タカラバ イオグル ープ	宝ヘルス ケア	計				
売上高								
外部顧客への売上高	84,541	8,332	1,323	94,198	1,110	95,309	169	95,478
セグメント間の内部 売上高又は振替高	454	309	2	767	2,479	3,246	△3,246	—
計	84,996	8,642	1,326	94,965	3,590	98,555	△3,076	95,478
セグメント利益又は損 失(△)	2,569	394	△86	2,877	27	2,905	420	3,326

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、印刷事業などの機能会社グループであります。

2. 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) 外部顧客への売上高は、当社において計上した不動産賃貸収益であります。

(2) セグメント利益又は損失は、セグメント間取引消去43百万円、事業セグメントに配分していない当社の損益376百万円であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

記載すべき重要な事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	宝酒造 グループ	タカラバ イオグル ープ	宝ヘルス ケア	計				
売上高								
外部顧客への売上高	84,457	8,708	1,133	94,299	1,193	95,492	219	95,711
セグメント間の内部 売上高又は振替高	451	305	2	759	2,424	3,183	△3,183	—
計	84,909	9,013	1,135	95,058	3,617	98,676	△2,964	95,711
セグメント利益又は損 失(△)	2,014	423	△3	2,434	53	2,488	411	2,899

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、印刷事業などの機能会社グループであります。

2. 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) 外部顧客への売上高は、当社において計上した不動産賃貸収益であります。

(2) セグメント利益又は損失は、セグメント間取引消去30百万円、事業セグメントに配分していない当社の損益380百万円であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

記載すべき重要な事項はありません。